



地域スポ少にも募る

一関二高 野球部

一関二高(佐藤楨信校長)の硬式野球部は12日、一関市社会福祉協議会(山本博会長)に、山林火災に遭った大船渡市への寄付金2万8466円を届けた。

2年の佐藤聡太主将と佐藤琢磨副主将らが一関市内の同協議会を訪問し、吉田浩和地域福祉課長に現金を手渡した。

佐藤主将は「地域のスポーツ少年団の協力もあった。被災地の支援になればうれしい」と語り、吉田課長は早速被災地に送らせてもらうと感謝した。

硬式野球部は8日に市内で開催したスポ少交流会で、参加児童生徒の保護者に寄付を募った。今後、県共同募金会を通じて被災地に届けられる。

寄付金を届ける一関二高硬式野球部の佐藤聡太主将(右)と佐藤琢磨副主将



野球の基本楽しく

一関二高部員が小学生指導

第2回いちのせきスポ少 交流会(野球教室)は8日、一関市赤荻の県立一関第一の高校グラウンドで開かれ、小学生と交流した。同校硬式野球部員23人

一関二高の生徒から指導されて投球練習する鈴木君(左)

「しようせー」をテーマに、児童が野球の楽しさや魅力を感じてもらい、競技人口の裾野を広げようと同部が主催。昨年11月に続いて今年度2回目となった。

同日は一つの少年野球チームから約30人が参加。前回の反省を生かして高校生が手本を見せたり、一緒にプレーしたりして会話の機会を増やした。同校の佐藤琢磨さん(2年)は「小学生に分かりやすく教えることが難しかったが、野球が楽しい、続けたいという気持ちになれば一番うれしい」と語った。

ブルペンで投球練習した一関二高スポ少の鈴木聖吾君(市立一関小学校4年)は「(捕手方向に踏み出す)足を外側に着くイメージが良かった。球が速くコントロールがいい投手になりたい」と話した。

会場では、大船渡市内で発生した山林火災への募金も受け付けた。

